

M 谷氏邸訪問記(2015.4.29)

1. 始めに

M 谷氏邸は昨年 3 度にわたって訪問させていただいていますが、今回 D 氏邸の訪問に先立って 1 時間ほどお邪魔しました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/18896bc5b66674918e46db6481e7ce83.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=2373>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/7b69639a62957e1f062230e717d62c4b.pdf>

訪問をお願いしたところ、M 谷氏から昨年のオーディオセッション大阪でインフラノイズがデモに使用していたナショナルの拳骨スピーカーを入手し、この鳴り方から JBL4343 も改めて鳴らし方を検討しなおしたとのことでした。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/e05ab7fa35a101382d6410d7903c8476.pdf>

昔から「(マルチユニットの) スピーカーの鳴らし方に迷いが出たら、フルレンジに戻れ。」ということが言われていましたが、M 谷氏の言はそういったことを実践されたのではないかと思います。

2. 試聴の経過

M 谷氏のシステムは上記の訪問記を参照していただくとして、今回追加になった拳骨と JBL4343 を聴かせていただきました。



音源は、各種 PCM 音源を AIT Lab. の DAC で DSD に変換し、まず拳骨で聴かせていただき、ついで JBL4343 で聴かせていただきました。拳骨で聴く音は驚くほどバランスが良くフルレンジ特有の高域の暴れもそれほど感じられませんでした。拳骨の駆動アンプは？と伺うと、プロ用の the tt amp s-150III とかでそれほど高価なもので

はないそうです。USB リベラメンテによる AIT Lab.の DAC への送り出しと DAC における DSD 変換も効いているのですが、このアンプで拳骨がこれほどスムーズに鳴るとは全く予想外のことです。



the tt amp s-150III

JBL4343 も調整の効果があって以前とはちがった伸びやかな澄んだ音になっていました。

そこで、拳骨に戻って、AIT Lab.の DAC の付属ケーブルを持参したパワーリベラメンテに替えてみましたところ、有山麻衣子の CD からリップングした音源でボーカルとピアノの透明性はもちろん、今まで聴こえていなかった会場ノイズや演奏者のたてるわずかなノイズも聴きとれるようになりました。クラシックもということで、アリス・沙良・オットーのピアノを聴かせていただくと、きちんとスタンウェイの音がしていました。ふたたび JBL4343 に戻すと、レンジは広くなりますが、少し中域が薄くなりバランス的にはもう少し調整の余地がありそうな感じがしました。

短時間でしたが、ともかく M 谷氏が「我が家の基本音」とまで言われる拳骨の鳴りっぷりを堪能しパワーリベラメンテの効果を確認できました。

以上